

第6回経営顧問会議 議事概要

1. 日 時：令和4年2月4日（金） 16：00～17：30

2. 場 所：東京事務所 役員会議室他

3. 出席者：

経営顧問会議

議長	吉川 弘之	東京国際工科専門職大学 学長
	石田 寛人	本田財団 理事長
	大隅 典子	東北大学副学長・大学院医学系研究科教授
	小川 尚子	日本経済団体連合会 産業技術本部 副本部長
	北村 正晴	(株)テムス研究所 代表取締役・所長
	向殿 政男	明治大学 顧問・名誉教授 鉄道総合技術研究所 会長

欠席	池辺 和弘	電気事業連合会 会長
	田中 伸男	タナカグローバル(株) 代表
	松本 紘	理化学研究所 理事長

原子力機構

	児玉 敏雄	理事長
	伊藤 洋一	副理事長
	須藤 憲司	理事
	吉田 邦弘	理事
	三浦 信之	理事
	大島 宏之	理事
	大井川 宏之	理事
	舟木 健太郎	理事
	田中 輝彦	監事
	天野 玲子	監事

4. 議 題：

- (1) 開催挨拶
- (2) 第5回議事概要(案)確認
- (3) 第5回経営顧問会議におけるご意見への対応について
- (4) 原子力機構の取組
- (5) 意見交換
- (6) 閉会挨拶

5. 配布資料：

- 資料 6-1. 第5回議事概要(案)
- 資料 6-2. 第5回経営顧問会議におけるご意見への対応について
- 資料 6-3. 第4期中長期目標期間における原子力機構の挑戦

6. 会議概要：

会議では、資料 6-1 に基づき第5回議事概要(案)について確認が行われ、原案どおり了承された。次に、事務局から資料 6-2 に基づき第5回経営顧問会議におけるご意見への対応について報告を行った。その後、理事長から資料 6-3 に基づき第4期中長期目標期間における原子力機構の挑戦について説明した。これらを受けて、各委員から多角的なご意見及びご指摘を頂いた。

7. 主なご意見及びご指摘：

【SMRの研究開発について】

- SMRの研究開発については、世界の方が進展している感じがするが、是非、世界をリードして行ってほしい。
- SMRの実験炉の国内立地が人材育成の点から望ましいが、困難な場合にも研究開発そのものに関わっていくという姿勢で臨んでほしい。

【情報の発信について】

- 国民は安心を求めており、安心につながる研究について、結果を広く社会に発信してほしい。
- 廃炉コスト・廃棄物の処理・処分などが、次世代への負担の先送りにとらえられ、若い世代の原発に対する根深い不信感を招いていると思う。そういった論点・課題に対し向き合い、積極的に情報発信し理解を求めていくことが必要である。
- ジェンダー問題に取り組んできた経験からいえば、高校生ではなく中学2年生くらいの年代がターゲット層として有効ではないかと分析している。若い人への認知に向けて、どのような内容を発信して行くのかは非常に重要となる。

【イノベーションについて】

- イノベーションの最先端では、いろいろな経験が蓄積されている。イノベーションを創出するための具体的な方法論、イノベーションマネジメントを如何に行っていくかが重要である。

【技術の標準化について】

- グローバルなマーケットを日本の技術で獲得していくには、機構が産業界やアカデミアと連携して、機構の技術を国際標準化することが必要ではないか。

【研究開発の進め方について】

- 原子力機構が目指していくべき方向性をはっきりとわかりやすく示していくことが重要ではないか。
- 原子力の外と内で壁があるように思えるため、原子力コミュニティが一般社会の一部となるためには、外と内の壁を壊す、社会に滲み出していくという努力を行って行ってほしい。

以 上